

【ジベレリン処理】

花穂整形時に残した目印の有無で処理前か処理済みかを確認して、2回確実に処理してください。

○1回目（使用目的：無核化）

ジベレリン 25ppm＋フルメット液剤 5ppm。処理時期：満開～満開3日後

処理が早すぎると軸が曲がりやすいため、必ず花が下まで咲ききってから（花冠（キャップ）が完全に取れてから）数回に分けて処理します。処理は薬液をゆっくり乾かすために早朝か夕方に行います。

上記濃度の薬液の調整は、ジベレリン粉末の小スティック 1.6g（ジベレリン 50mg 含有）1袋またはジベレリン錠剤2錠とフルメット液剤1本（10ml）を2ℓのペットボトルに溶かすと簡単です。溶かした後は効果が低下しますので、余った薬液は冷蔵庫で保管し、翌日に使い切ってください。

○2回目（使用目的：果粒肥大促進）

ジベレリン 25ppm。処理時期：満開 10 日後～15 日後

薬液による果皮の汚れを防ぐため、早く乾かす必要があります。処理は日中に行ってください。

【仕上げ摘房・摘粒】

○果軸の切り下げ（満開後1週間頃）

果軸が伸びすぎた房や房の上部に果粒が多すぎる房は、2回目のジベレリン処理の前に上の軸を切ります（写真1）。上の軸を切ることにより下段の果粒の肥大が促されます。

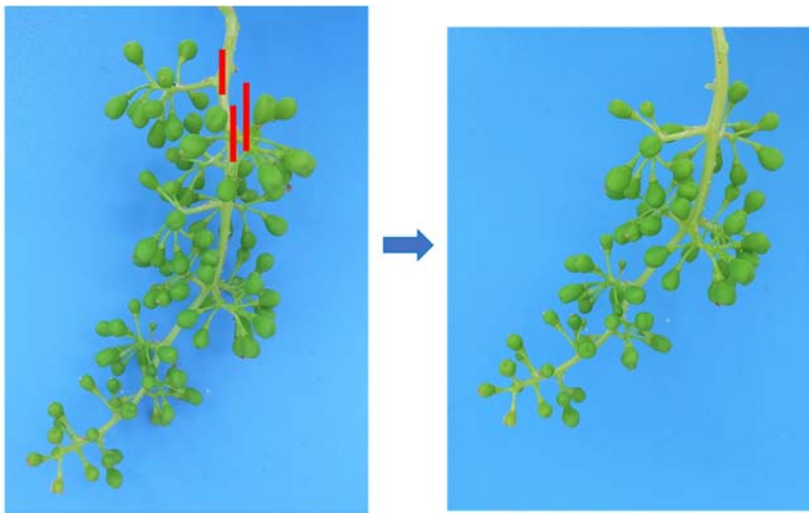


写真1 果軸の切り下げ

○仕上げ摘房

着粒が少ない房、形が悪い房、粒が多すぎて摘粒に時間がかかる房を落としてください。

○粗摘粒（ジベレリン 2 回目処理直後）

房の内側を向いた果粒は、中にはさみ込まれるため外します。この時期は肥大が日に日に進むので、できるだけ早く取り除いてください（写真2）。

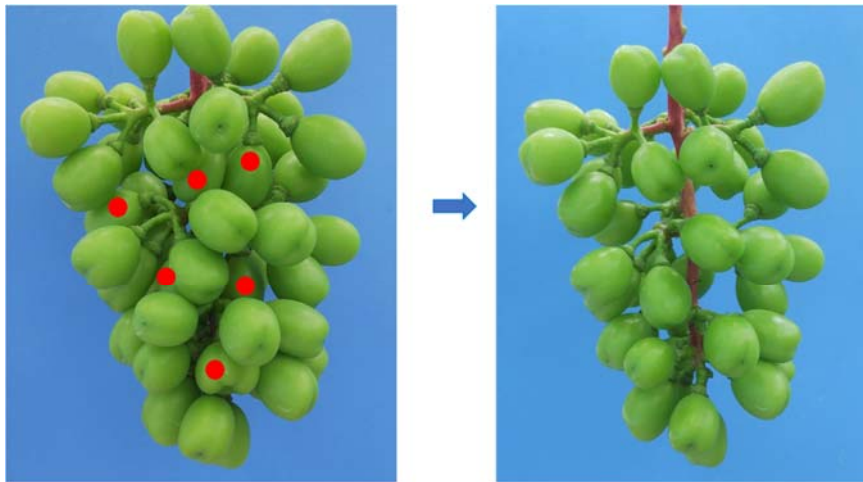


写真2 粗摘粒

○仕上げ摘粒

盆前出荷は1房 700g を目安とし、45 粒程度残します。盆後の出荷は出荷形態に応じて調整します。

果

粒が重ならないように、できるだけ軸が見えないように調整します。摘粒の際は果粉（ブルーム）を落とさないように必ず軸を持ってください。また、軸が残ると果粒が大きくなってから傷を付けますので、軸はきれいに切ってください。

果実をアザミウマの被害や農薬による汚れを避けるため、摘粒はできるだけ早く終わらせて袋掛けを行ってください。

【着果量】

シャインマスカットは着色しないため、生らせ過ぎる傾向があります。葉で稼ぐ養分量は決まっています。生らせ過ぎると糖度が低下し、熟期も遅れます。シャインマスカットは房の上と下の糖度差が1～1.5度あります。上が18度の房は下も17度程度ありますが、16度の房では下は15度以下となり美味しくありません。一昨年のような曇天日照不足の年は糖度が上がりにくいいため、生らせ過ぎは厳禁です。

糖度18度以上を確保するために、着果量は多くても2ト程度にとどめてください。

【新梢管理】

○新梢の摘心

開花時期に無核化と果粒肥大を促すために房の先から5～6節を残して新梢を摘心します。長さが短い新梢は切らずに放置し、新梢が伸びてから摘心してください。

樹齢が若い樹は、強めの摘心（房先3～4節）の方が果実肥大は優れます。ただし、副梢は出やすくな

りますので、摘心をしっかり行ってください。

樹勢が弱い樹は、副梢が出にくいいため、葉数をできるだけ確保するために未展葉部で摘心してください。

○副梢の摘心

新梢の摘心後は、枝の遅伸びによる養分の浪費を防ぎ、日照を有効に利用するために、副梢の摘心を徹底します。副梢の葉を1～2枚残して未展葉部で切り、再び伸び出したら繰り返します。必要な葉数が確保できた後は芽かぎしてください。摘心の間隔は7日～10日おきを目安にします。樹勢が強い樹では摘心が遅れるとつるが他の新梢に巻きついて時間がかかり、無理に引っ張ると葉を傷つけますので、摘心の間隔を空けないようにしてください。